

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.128

2011年3月10日

発行所 兵庫教育文化研究所

〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

和太鼓のひびきにのせて

音楽教育部会授業研究会 開催

研究所音楽教育部会が、姫路市内の小学校において音楽の授業を参観しました。

授業は4・5年「和太鼓に親しもう」。ほどよい緊張感の中、生き生きとした和太鼓の音が体育館にひびきわたりました。

指導者が個々の学習の状況に応じて範奏・動作・助言といった支援をおこない、子ども同士が関わり合いながら技能を高めていきました。和太鼓に向かう子どもたちの瞳の輝きが何より印象的でした。



授業の後、5・6年生の研究演奏「瀑（ぼく）」を鑑賞しました。学校行事だけでなく、地域の祭りや農業祭など、様々な機会に和太鼓演奏を披露しているそうです。子どもたちの心のつながりを映し出すかのような洗練された演奏に、参観者一同強く心を打たれました。



研究協議では、「感性と心情を育てる和太鼓演奏のとりくみ」「伝統音楽の学習のあり方」をテーマとして、実践にもとづいた協議がおこなわれました。和太鼓の具体的な指導法について話し合われたほか、「文化としての伝統音楽」は総合学習として学ぶべき内容を持っているといったことが指摘されました。



2011年4月から完全実施となる新学習指導要領においては、「我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として、我が国及び他国の音楽文化を尊重する態度を養う」という観点から「伝統音楽の指導の充実」がうたわれています。日本音楽についての学習を単発的・形式的なものにすることなく、音楽教育に関する視野を拡大するとともに音楽の姿・本質を探究し「日本音楽で何を教えるのか」「子どもにどのような力を育てるのか」を追求していくことは、きわめて重要な課題であると考えられます。